



思いが形になること、 お客様の喜ぶ顔が喜び。 町の頼れる工務店を目指して。

小さい頃から叔父の背中を見て、大工として働く姿に憧れていたんです。いつの頃からか将来は大工になりたいと思いはじめましたと微笑む山田さんにお話を伺いました。



有限会社上山工務店
代表取締役

山田 修久さん
(やまだのぶひさ)

岡山県新見市出身。中学の時は野球部のキャプテン。ソフトボールチームでプレーをしたり、仲間とお酒を飲みに行くのが楽しみとか。

岡山県新見市長屋2-2 0120-76-1298 <https://ueyama-koumuten.com/>

修行時代に 学んだ事

高校を卒業後、倉敷の職業訓練校に1年間通学し、新見に帰り叔父の会社に就職。業界の状況も作業も不慣れな状態の中、叔父の反対を押し切り、修行に出る事を決め、職業訓練校の紹介で岡山市内の高島建設にお世話になりました。やった事もない現場仕事も多く失敗も多々ある中、そんな私を温かく見守り、励まし育ててくださった社長様始め親方さん達には感謝の気持ちで一杯です。その時の数々の経験が今の私の原点になっていると思うんです。5年間の修行を終えて新見に帰り叔父の会社の社長に就任することになったんです。体力には自信はありましたが、経営に於いては、話をするのも苦手でも苦勞しました。でも社長になつたからにはやるしかないと思ひ気持ちを切り替えながら毎日をごしていた時期がありました。

地域性がある

新見の地域性には、知っている人から物事を受け入れる習性があり、一過性の継続しないものを嫌う傾向があります。そんな地域の人たちに我が社の良さをわかしてもらうにはどうしたら良いかと考えた結果、OBのお施主様へDMを毎月送り出しました。今までに建ててくださったお施主様へのお礼と変わらぬ感謝の気持ちを込めたDMを続けたいことで、ある日依頼が来たのです。その時の嬉しい気持ちは今でも忘れません。そのお施主様に納得のいく家造りを提案させて頂こうと身の引締る思いだったことを思い出します。DMは今も継続していますが、直ぐには依頼に繋がりませんが『継続は力なり』と思うんですね。野球のヒットやホームランだって何本か打てば直ぐに打てるもんでなく継続して練習するから打てるんであつてまぐれは無いんです。

努力が報われる と信じるから

その経験から、努力した結果

は必ず誰かが見てくれていると言ふ自信に繋がりました。そんな一人一人を大切に思ふ気持ちで今の会社の真髓にあり、叔父と同じ共有の気持ちなんです。そして私と一緒に働いてくれる従業員がいるから、会社は成り立っていると思ふんです。お施主様も従業員も私にとっては家族と同じくらい大切な存在なんです。家は人生の大半を過ごす所だから中途半端はできない、そう思うからこの仕事を頑張りたいたいと思ふし、新見の町の一番頼れる工務店になりたいと襟を正す毎日なんです。そして、若い人が新見の家造りを継いで行けるように会社としても大きくなつていこうと思ふんです。温故知新と言ふ言葉が意味するように、その地域に合う家造りが継承されていくように見守る事も私の使命と考えています。



手仕事が目慢の工務店。働く従業員が宝物と山田さん。